

活動報告

世界史研究推進委員会夏期集中講座

テーマ「現代史を学ぶ」

外語短期大学付属高校 石橋 功

二〇〇二年（平成一四年）から、三年生対象に受験講座が開講された。世界史推進委員会主催によるこの講座では、中国史やイスラーム史などを、他校の教員が本校で受験用の世界史を教えるという設定で、午前に授業（五〇分×２）、午後に参加教員による討議というかたちで行われてきた。

今年度も夏季休業期間に世界史研究推進委員会のメンバーを講師とする高校生対象の公開講座が行われた。

日 時 八月二十七日（月）～八月三〇日（木）

時 間 一〇時一五分～一二時一五分

場 所 県立外語短大三〇一教室

内 容 一九四五年以降の現代史を大学受験対応で学習する

八月二十七日（月）①「ヨーロッパ現代史」

講師 澤野 理（川崎工業高校）

八月二十八日（火）②「米ソ冷戦史」

講師 小林克則（厚木商業高校）

八月二十九日（水）③「西アジア現代史」

講師 杉山 登（逗子開成高校）

八月三〇日（金）④「東アジア現代史」

講師 早川英昭（大船高校）

《授業の様子》

①「ヨーロッパ現代史」生徒参加五三名（外語四九名、栄光、柏陽等）教員等一五名

講義は主にプリントを用いて行われた。東欧旅行の際入手したTシャツを着ての歯切れのいい授業で、ヨーロッパ現代史の受験をほとんど網羅するものであった。内容が多岐にわたり、EUの解説の部分が駆け足となってしまった。

②「米ソ冷戦史」生徒五三名（外語四八名、栄光、上郷等）教員等一五名

世界史教育の権威として有名な講師の授業は自分の個人史を現代史に重ねたもので、特に世代が近い教員にとっては大受けの授業であった。後半のソ連史をもっと詳しく聞きたかった。

③「西アジア現代史」生徒五一名（外語生徒四六名、横浜、上郷等）教員等一四名

この日までの講師と違いプリントを一切使用しない、板書きだけの古典的授業が現在も通用することを証明する授業であった。生徒の感想もおおむね好評であった。その点で言えば大学受験をはっきり意識した授業であった。

④「東アジア現代史」生徒四二名（外語生徒三九名、大船、氷取沢等）教員等一四名

多くのプリントを用意して、それをもとに授業がおこなわれた。生徒の反応を見て逐一対応した結果、熱が入って授業時間が延長された。自身の北朝鮮訪問の体験をまじえた授業は生徒を引きつけたようだ。